

あいち農産物生産流通レポート

2023年11月号

| | ページ |
|---|-----|
| ◎ 情報サロン | |
| ・ カンキツ「みはや」のM・Lサイズの果実を安定生産できる技術を開発 (農業総合試験場) | 1 |
| ◎ 地域トピックス | |
| ・ 豊田市公設地方卸売市場の一般開放について (豊田加茂農林水産事務所) | 2 |
| ・ 新城設楽地域における産地生産基盤パワーアップ事業の取組 ～新規就農者受け入れによるいちご産地の振興～ (新城設楽農林水産事務所) | 3 |
| ◎ 東日本情報 | |
| ・ 加工・業務用野菜の情報交換会セミナーが開催されました (東京事務所) | 4 |
| ◎ 青果 | |
| ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) | 7 |
| ・ 名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し | 8 |
| ◎ 花き | |
| ・ 切花・鉢花の11月の見通し(県内市場) | 20 |

※今月「西日本情報」、「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

カンキツ「みはや」のM・Lサイズの果実を安定生産できる技術を開発

農業総合試験場

1 背景と目的

カンキツ「みはや」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門が育成し、2014年に品種登録されました。果皮が赤橙色で外観が美しく、芳香があり、食味が優れた品種です。慣行栽培を行うと、果実は2Lサイズが中心となります（表1）。

「みはや」は11月下旬に収穫期を迎え、早生のウンシュウミカンと出荷時期が重なります。ウンシュウミカンでは消費者の間でM・Lサイズの人気が高く、同じ時期に販売される「みはや」もM・Lサイズの方が販売しやすいという声が、直売主体の生産者から上がっていました。そこで、M・Lサイズの果実を安定的に生産できる技術の開発に取り組みました。



カンキツ「みはや」の果実

表1 果実サイズ別の横径

| サイズ | 横径 (mm) |
|------|---------|
| 3L級果 | 80~88 |
| 2L級果 | 73~80 |
| L級果 | 67~73 |
| M級果 | 61~67 |
| S級果 | 55~61 |

2 研究内容

カンキツ類は果実を多く着果させると、果実のサイズが小さくなります。しかし、着果数が多いと樹体に負荷がかかり、1年おきに着果が少なくなる隔年結果が心配されます。

現在「みはや」の慣行栽培では、2Lサイズを目標に葉果比（1果実当たりの葉数）80を基準として摘果を行っています。それに対して、葉果比40、60と慣行よりも着果数を増やし、M・Lサイズの果実を安定的に生産することができるか試験を行いました。

3 着果量の違いがサイズ規格と果実品質に与える影響

2019年から2021年にかけて調査を行った結果、慣行栽培の葉果比80と比べ、葉果比40の処理区ではM・Lサイズの割合が約20%高い傾向にありました（図1）。

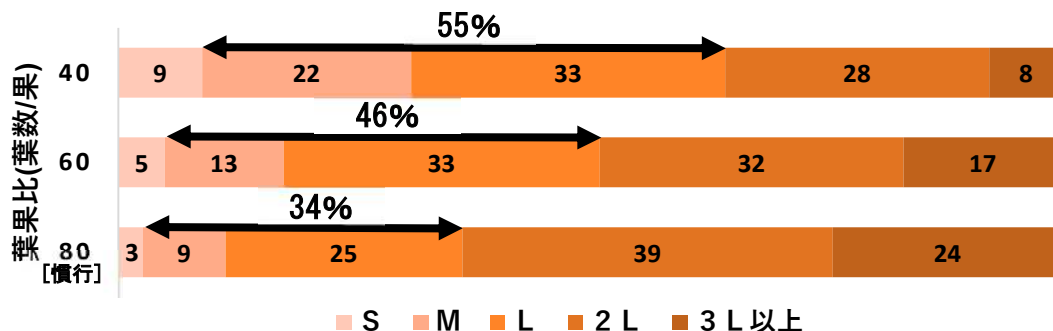


図1 各葉果比における果実サイズ分布割合 (2019年~2021年平均値)

また、収量は、葉果比40>葉果比60>葉果比80の順で多くなり、果実品質（糖度・酸）は、すべての処理区でおおむね同等でした。なお、翌年の花の数は、葉果比40において減少傾向でしたが、摘蕾・摘果を行って最終着果量を残す上で必要な花の数は確保でき、3年間、葉果比40で生産しても顕著な隔年結果は起こりませんでした。

今回の研究成果から、葉果比を適切にコントロールして「みはや」のM・Lサイズの果実を安定生産できることがわかり、生産者の所得向上につながることを期待されます。

豊田市公設地方卸売市場の一般開放について

豊田加茂農林水産事務所

豊田市公設地方卸売市場では、食品流通拠点としての役割や地元農産物の魅力を市民に知ってもらうため、一般開放日を設けています。

一般開放は2011年12月から始められており、季節の食材が集まる時期に合わせて年5回程度（2月、6月、9月、10月、12月頃）開催しています。直近では、9月2日（土）に開催され、約3,300人の来場者でにぎわいました。

1 豊田市公設地方卸売市場の概要

当市場は1982年に豊田市が開設した地方卸売市場（県が認定した卸売市場）で、2022年度の取扱高は、青果25,789t（72億7628万円）、水産物2,639t（24億5987万円）です。



豊田市公設地方卸売市場

2 開催状況（2023年9月2日）

（1）出店

25業者が出店し、水産物（まぐろ、三河一色産うなぎのかば焼き等）や青果（もも、なし、ぶどう等）の即売、豊田市産もののソフトクリームとなしのジェラート販売、地元産なしの試食、なすの品評会、食品や菓子の販売等が行われました。



マグロの解体実演・即売

（2）せり体験

参加者は卸売市場の仕組みについて説明を受けた後、果物等の「せり」を体験しました。子供も大人も手を挙げて大きな声で値段を言い、大いに盛り上がりました。



青果のせり体験

（3）地元産果物の抽選会

来場者が購入や試食をした際に抽選券が配布され、イベントの最後に、抽選会が行われました。あいち豊田農業協同組合がもも、なし合計20箱を景品として提供しました。

3 今後の開催予定

今後の一般開放の日程等は、豊田市公設地方卸売市場ホームページを御確認ください。

新城設楽地域における産地生産基盤パワーアップ事業の取組

～新規就農者受け入れによるいちご産地の振興～

新城設楽農林水産事務所

新城設楽地域は、東三河の中部から北部に位置し、農業産出額では、畜産物が最も多く、次いで野菜が多くなっています。野菜では、夏秋トマトは県内唯一の産地で、次いでいちごの促成栽培が盛んです。新城設楽地域のいちごは栽培面積 604a（2021 年）で、新城市の平坦地域を中心に栽培され、野菜産出額 16 億円（2021 年）の約 25%を占める重要な農産物となっています。

1 取組の背景及び内容

高齢化や人口減少が進む新城設楽地域では、農業の担い手の確保・育成を総合的に実施するため、いちごなどを奨励作物に定めて、就農相談や農業研修、就農準備の支援を関係機関が連携して実施しています。新城設楽農林水産事務所農政課（以下、「農政課」という。）では、国、県の様々な補助事業を活用して新規就農者の施設整備等を支援しています。

このたび、愛知東農業協同組合の苺部会に出荷する新規就農者が産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、2022 年度に 1 戸、2023 年度に 4 戸の合計 5 戸で合計 101a の施設整備を行うこととなりました。農政課では①高設栽培システムの導入による労働負荷軽減、②環境測定装置及び炭酸ガス施用装置の導入による高品質・高収量の実現、③台風などの自然災害のリスク回避を目的として、低コスト耐候性ハウスを導入する事業計画の作成を支援しました。

2 事業効果

いちごの栽培面積が事業開始時に比べて 16%増加し、産地規模の拡大が図られます。また、新規就農者にとっては、初期投資が低減され、地域への定着がより確実になります。さらに、過去に類似の施設整備を行った新規就農者の中には、生産部会でトップクラスの収量を得ている者もあり、今回対象の 5 戸の新規就農者も実績をあげ、地域を牽引することが期待されます。



事業で整備した低コスト耐候性ハウス

3 今後の課題

2024 年 9 月からの栽培開始に向けて、雇用労働力確保や、新規就農者の経営が早期に安定するように、生産技術の習得を進める必要があります。

加工・業務用野菜の情報交換会セミナーが開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023年9月21日（木）に東京ビックサイトにおいて「加工・業務用野菜の情報交換会セミナー」（主催：野菜流通カット協議会）が開催されました。当セミナーでは食品ロス削減やSDGsをテーマとした様々な話題が提供されましたので、その一部を紹介します。

1 食品ロス・リサイクルをめぐる情勢について

（農林水産省 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦真二氏）

（1）食品ロスの削減に向けた現状と目標

SDGsを中核とする「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が2015年の国連サミットで採択され、このアジェンダで食料の損失・廃棄の削減も目標に設定された。日本の現状を見ると、2021年度の食品ロス量は約523万t（事業系約279万t、家庭系約244万t）で、これは国民1人当たり換算で1日約114gとなり、茶碗約1杯（約150g）のご飯に近い量を毎日廃棄していることになる。農林水産省は食品ロスを2030年度までに2000年度（食品リサイクル法の制定年度）の半分に削減する（547万t→273万t）という目標を掲げ、様々な施策を展開している。

（2）食品ロスの削減に向けた取組

食品ロス削減推進法（2018年制定）は、食品ロス削減の基本的な視点として、国民各層が主体的にこの課題に取り組み、社会全体として対応していくこととしている。

事業系食品ロスの発生要因としては、いわゆる1/3ルール等の商慣習や消費者の賞味期限への理解不足等があげられる（表）。このため、事業者に対する取組としては、常温流通の加工食品において①納品期限の緩和（1/3ルール緩和による無駄な製造や在庫数量の減少）、②賞味期限の年月表示化（年月日を年月の表示にして在庫管理を効率化）、③賞味期限の延長（製造技術や包装技術の進歩）を一体的に推進している。

表 事業系食品ロスの発生要因と対策の方向（出典：セミナー資料）

| | 主な食品ロスの発生要因 | 対策の方向 |
|----------------|---|-------------------------|
| 食品製造業 食品卸売業 | ○商慣習 ・食品小売業において賞味期間の1/3を超えたものを入荷しない、2/3を超えたものを販売しない（1/3ルール）* ・先に入荷したものより前の賞味期限のものは入荷しない | ○商慣習の見直し |
| 食品小売業 | ○販売機会の損失を恐れた多量の発注 | ○需要に見合った販売の推進 |
| | ○消費者の賞味期限への理解不足 | ○フードバンクとの連携 ○消費者への啓発 |
| 外食産業 | ○消費者の食べ残し | ○「食べきり」「持ち帰り」の促進 |

*愛知県東京事務所が加筆

消費者に対する取組としては、食品ロス削減が期待できる「てまえどり」（商品棚の手前にある商品を選ぶ）の普及・認知の拡大、気象情報とPOS（販売時点情報管理）データを組み合わせた需要予測の精緻化、飲食店等での「食べきり」「持ち帰り」の促進等に取り組んでいる。

(3) 食品リサイクルの取組

食品リサイクル法は、食品廃棄物等の発生抑制を優先的に取り組んだ上で再生利用等を実施することとし、再生利用手法の優先順位は、飼料化、肥料化、きのこ菌床への活用、その他（メタン化等）の順としている。国は再生利用事業計画認定制度を定め、食品関連事業者から発生する廃棄物を肥料化・飼料化し、それを用いて生産した農産物等を食品関連事業者が取り扱う食品リサイクルループの形成を推進している。

2 食品残渣をリサイクルして循環型社会を実現する「地域食品資源循環ソリューション」 (NTT ビジネスソリューションズ株式会社 スマートアグリ s 事業部 鳥嶋祐嗣氏)

(1) 地域食品資源循環ソリューションについて

①食品関連事業者から出た食品残渣を発酵分解装置（微生物利用）に投入して一次発酵物へ分解、②一次発酵物をリサイクルセンターで堆肥化、③堆肥を契約農家へ提供、④生産された農作物を食品関連事業者が利用、という地域食品資源循環モデルを提案している（図）。発酵分解装置は月額レンタルで、設置作業から保守メンテナンス

までのトータルパッケージサービスで提供している。利用者は装置に食品残渣を投入して堆肥化促進材を混入するまでを行い、装置で作られた一次発酵物は当社の提携先が定期的にリサイクルセンターへ運搬している。



図 地域食品資源循環のモデル（出典：セミナー資料）

(2) リサイクル堆肥について

契約農家が安心して使用できるように、堆肥づくりにおいては IoT センサーにより堆肥状態（水分、温度）を見える化し、有機物が十分に分解して完熟した安心・安全な堆肥を生産している。リサイクル堆肥については農作物の生産試験を行っており、コマツナの生育、ニンジンとダイコンの収穫量はいずれも優れた結果であった。

食品残渣を堆肥にリサイクルすることで、焼却や埋め立てといった従来の廃棄手段と比べて、約 80%（約 1,500t-CO₂/年）の CO₂ 排出量の削減効果が期待できる。

(3) 今後の新たな取組について

発酵分解装置の設置場所がない事業者の廃棄物の回収・処理を行う移動式循環リサイクルカー、廃棄ロス防止に向けたドローン空撮画像による野菜の生育状況の見える化、食品ロス削減と収益性向上に向けた青果小売 DX 等の実証実験に取り組んでいる。

SDGs の目標達成に向けて、国が必要な法整備や様々な施策を展開する一方、大企業でも SDGs 関連の事業展開が増えてきているようです。農業分野においても、生産・流通・販売の各場面において SDGs の取組を一層充実させていく必要があります。

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ぎんなん）

| | 入 荷 量 (t) | 卸 売 価 格 (円/kg) | | 前年主要産地 (上位3産地) |
|--|--------------|---|-------|-------------------|
| | | うち愛知産 | 愛知産 | |
| 2022年実績 | 76 | 76 (99%) | 992 | 愛知(99%) 岐阜(1%) |
| 2023年見通し | 61 | — | 1,180 | — |
| 概要と見通し | | 卸売市場から産地への要望・提言等 | | |
| <p>愛知からほぼ全量を入荷する。本年は全体的に不作で、高温により上の方の実は、芯があり固いものが多いため、昨年の7割～8割程度の生産量となる見通し。また、昨年同様に小玉傾向となる予想。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | <p>ぎんなんは愛知の特産品で全国一の産地でもある。消費者からは大玉が好まれるため、枝打ちなど大玉の生産に重点を置いた栽培管理をお願いしたい。</p> | | |

○ 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

| | 入 荷 量 (t) | 卸 売 価 格 (円/kg) | | 前年主要産地 (上位3産地) |
|--|--------------|---|-----|--------------------|
| | | うち愛知産 | 愛知産 | |
| 2022年実績 | 4,670 | 375 (%) | 215 | 熊本(21%) 茨城(15%) |
| 2023年見通し | 4,500 | — | 220 | 長野(14%) |
| 概要と見通し | | 卸売市場から産地への要望・提言等 | | |
| <p>前年は夏場の産地の出荷量が少なく高値での販売開始であったが、秋冬産地の出荷ピークが全産地で重なり、過去にない集中した入荷となって相場を下げた。本年については、安定した産地リレーと入荷により平年並の相場展開となっている。 愛知県産については11月下旬より本格出荷を見込み、高温干ばつの影響はあるものの安定した出荷を見込む。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p> | | <p>本年は、全国的に高温干ばつ傾向にあるため、品質不良に留意して欲しい。 愛知県産の品質評価は非常に高いため、引き続き形や色揃えをしっかりと整えるなど、品質維持に努めてほしい。</p> | | |

名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し

名古屋中央卸売市場

10月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | | |
|------|---|--------|------|---------|-----|------------|----------------------|------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | |
| 野菜 | 2018年 | 34,369 | 214 | 235 | 211 | 191 | 北海道 33% | |
| | 2019年 | 34,918 | 210 | 201 | 219 | 205 | 茨城 16% | |
| | 2020年 | 36,163 | 190 | 200 | 196 | 173 | 愛知 16% | |
| | 2021年 | 37,970 | 200 | 202 | 199 | 202 | 長野 8% | |
| | 2022年 | 38,386 | 220 | 228 | 225 | 206 | 千葉 4% | |
| | 5カ年平均 | 36,361 | 207 | — | — | — | | |
| | 2023年見通し | 36,300 | 247 | — | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| 計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/Kg |
| | <p>北海道、茨城、愛知を中心に入荷する。前年は平年並の価格の品目が多かったが、本年は平年に比べ高値の品目が多くなる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> | | | | | | | |
| だいこん | 2018年 | 2,273 | 68 | 84 | 64 | 61 | 千葉 56% | |
| | 2019年 | 2,025 | 101 | 107 | 109 | 96 | 愛知 28% | |
| | 2020年 | 1,945 | 71 | 91 | 71 | 58 | 青森 8% | |
| | 2021年 | 2,124 | 61 | 73 | 59 | 55 | 神奈川 2% | |
| | 2022年 | 2,183 | 87 | 102 | 92 | 75 | 静岡 2% | |
| | 5カ年平均 | 2,110 | 77 | 91 | 78 | 70 | | |
| | 2023年見通し | 2,000 | 98 | 110 | 95 | 90 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| ん | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/Kg |
| | <p>千葉、愛知を中心に入荷する。生産者の減少と8月の播種のいきづまりにより、全国的に出荷量は微減傾向。千葉産が、10月中旬頃から始まり、メインの取り扱いとなる予想。 入荷量は前年よりかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> | | | | | | | |
| にんじん | 2018年 | 1,515 | 174 | 235 | 160 | 121 | 北海道 61% | |
| | 2019年 | 2,157 | 107 | 102 | 121 | 102 | 愛知 20% | |
| | 2020年 | 2,190 | 128 | 145 | 136 | 115 | 岐阜 6% | |
| | 2021年 | 2,544 | 104 | 118 | 120 | 94 | 千葉 5% | |
| | 2022年 | 2,084 | 118 | 134 | 106 | 124 | 青森 3% | |
| | 5カ年平均 | 2,098 | 123 | 143 | 125 | 109 | | |
| | 2023年見通し | 1,500 | 173 | 230 | 170 | 120 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| ん | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/Kg |
| | <p>北海道を中心に、愛知、岐阜から入荷する。北海道は例年より早めの終了となり、岐阜・愛知・関東は播種期の高温により、遅れ気味のスタートとなる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | | | |

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地(%) | |
|------|--|--------------|-------|-----|-----|-----------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 野菜計 | 2018年 | 1 2 6, 8 8 9 | 2 2 4 | 248 | 215 | 207 | 茨城 23% |
| | 2019年 | 1 2 4, 4 0 4 | 2 3 9 | 236 | 245 | 238 | 千葉 21% |
| | 2020年 | 1 2 3, 8 2 8 | 2 0 9 | 225 | 213 | 188 | 北海道 18% |
| | 2021年 | 1 2 3, 0 7 4 | 2 1 5 | 224 | 212 | 209 | 群馬 4% |
| | 2022年 | 1 1 5, 5 1 5 | 2 2 9 | 249 | 228 | 209 | 埼玉 4% |
| | 5カ年平均 | 1 2 2, 7 4 2 | 2 2 3 | — | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 1 2 3, 0 0 0 | 2 4 0 | — | — | — | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 【産地状況】 野菜全体の入荷量は回復傾向であるが長ネギは少ない状況が続く予想。多くの品目で産地が関東や西南暖地に切り替わる。 | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋6.5%) 価格：前年をやや上回る。(＋4.8%) | | | | | | |
| だいこん | 2018年 | 1 2, 8 7 3 | 5 9 | 74 | 53 | 49 | 千葉 66% |
| | 2019年 | 1 0, 8 8 6 | 9 7 | 100 | 99 | 91 | 神奈川 19% |
| | 2020年 | 1 1, 7 8 8 | 5 9 | 79 | 54 | 44 | 青森 7% |
| | 2021年 | 1 1, 6 0 7 | 5 5 | 67 | 53 | 44 | 茨城 6% |
| | 2022年 | 1 0, 8 6 1 | 7 4 | 85 | 75 | 62 | 岩手 1% |
| | 5カ年平均 | 1 1, 6 0 3 | 6 8 | 81 | 66 | 57 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 1 1, 0 0 0 | 7 5 | 75 | 70 | 80 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 【産地状況】 関東産を中心に入荷する。10月までの少ない状況は改善されるが、平年ほどは多くないと見込まれる。品質は回復傾向である。 | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋1.3%) 価格：前年並。(＋1.4%) | | | | | | |
| にんじん | 2018年 | 7, 1 8 2 | 1 1 7 | 220 | 185 | 131 | 千葉 56% |
| | 2019年 | 7, 4 0 7 | 1 1 8 | 101 | 117 | 137 | 北海道 26% |
| | 2020年 | 7, 4 4 9 | 1 3 6 | 138 | 143 | 127 | 埼玉 9% |
| | 2021年 | 7, 9 3 4 | 1 0 3 | 67 | 107 | 94 | 青森 7% |
| | 2022年 | 7, 4 0 8 | 1 2 1 | 131 | 124 | 109 | 茨城 1% |
| | 5カ年平均 | 7, 4 7 6 | 1 1 9 | 130 | 135 | 119 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 7, 2 0 0 | 1 5 5 | 165 | 150 | 150 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 【産地状況】 千葉、北海道、埼玉からの入荷が中心となる。上旬は北海道が終わる一方、関東産は出始めで少ない。関東産は中旬から増量。 | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.8%) 価格：前年を大幅に上回る。(＋28.1%) | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

10月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | | |
|--------|---|-------|------|---------|-----|------------|----------------------|------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | |
| ほうき | 2018年 | 4,255 | 64 | 83 | 62 | 48 | 茨城 58% | |
| | 2019年 | 4,289 | 78 | 72 | 84 | 79 | 長野 27% | |
| | 2020年 | 4,680 | 46 | 48 | 48 | 41 | 愛知 11% | |
| | 2021年 | 4,864 | 54 | 55 | 56 | 50 | 三重 3% | |
| | 2022年 | 4,040 | 81 | 89 | 81 | 73 | 岐阜 1% | |
| | 5ヵ年平均 | 4,426 | 64 | 68 | 66 | 58 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 4,000 | 80 | 90 | 80 | 70 | | |
| さい | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/kg |
| | <p>茨城、長野を中心に入荷する。長野産は平年よりも早く切り上がり、茨城産は、盆前後の定植時期に高温干ばつであったため、定植が遅れ、11月上旬は荷が少なくなる見込み。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年並の見込み。</p> | | | | | | | |
| キャベツ | 2018年 | 3,707 | 88 | 116 | 75 | 77 | 愛知 50% | |
| | 2019年 | 3,418 | 80 | 77 | 89 | 78 | 茨城 33% | |
| | 2020年 | 4,044 | 66 | 76 | 69 | 57 | 長野 5% | |
| | 2021年 | 4,278 | 72 | 89 | 72 | 61 | 北海道 4% | |
| | 2022年 | 4,091 | 90 | 107 | 92 | 74 | 群馬 2% | |
| | 5ヵ年平均 | 3,908 | 79 | 93 | 79 | 69 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 4,000 | 90 | 100 | 90 | 80 | | |
| さい | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/kg |
| | <p>愛知、茨城を中心に入荷する。高原キャベツ（長野、群馬産）が10月いっぱいか11月上旬で終了見込みだが、秋冬（茨城、愛知産）が生育順調で前進出荷の見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。</p> | | | | | | | |
| ほうれんそう | 2018年 | 380 | 424 | 533 | 357 | 397 | 岐阜 49% | |
| | 2019年 | 269 | 685 | 747 | 772 | 580 | 愛知 27% | |
| | 2020年 | 386 | 443 | 591 | 488 | 323 | 茨城 15% | |
| | 2021年 | 365 | 487 | 586 | 462 | 425 | 静岡 5% | |
| | 2022年 | 388 | 476 | 622 | 478 | 369 | 長野 2% | |
| | 5ヵ年平均 | 358 | 492 | 605 | 488 | 408 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 350 | 500 | 600 | 500 | 400 | | |
| さい | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | 数量 t | | | | 単価 円/kg |
| | <p>岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。上旬は岐阜産、中下旬は愛知・関東物が中心になる予想。9月期の高温推移により、秋冬作が遅れ気味だったが、11月中旬以降には出揃う見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | | |

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|---|------------------|--------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ほうとう | 2018年 | 15,001 | 51 | 72 | 43 | 36 | 茨城 87% |
| | 2019年 | 15,639 | 67 | 62 | 68 | 71 | 長野 8% |
| | 2020年 | 15,413 | 34 | 40 | 33 | 29 | 群馬 3% |
| | 2021年 | 15,781 | 42 | 50 | 43 | 34 | 岩手 1% |
| | 2022年 | 13,295 | 63 | 75 | 60 | 54 | |
| | 5ヵ年平均 | 15,026 | 51 | 59 | 49 | 45 | |
| | 2023年見通し | 14,000 | 60 | 65 | 55 | 60 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 茨城からの入荷が中心となる。上旬は長野が終盤となるが茨城の量が少なく、中旬から安定した出回りとなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋5.3%) 価格：前年をやや下回る。(▲4.8%) | | | | | | | |
| キャベツ | 2018年 | 15,335 | 84 | 103 | 73 | 75 | 千葉 48% |
| | 2019年 | 15,307 | 79 | 73 | 89 | 77 | 茨城 23% |
| | 2020年 | 15,067 | 62 | 70 | 62 | 52 | 愛知 16% |
| | 2021年 | 15,458 | 68 | 80 | 67 | 56 | 神奈川 4% |
| | 2022年 | 14,227 | 81 | 91 | 82 | 70 | 群馬 4% |
| | 5ヵ年平均 | 15,079 | 75 | 83 | 75 | 66 | |
| | 2023年見通し | 15,000 | 80 | 80 | 80 | 80 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 千葉、茨城、愛知からの入荷が中心となる。千葉と茨城は出荷盛期となり、愛知も増量し、中旬は潤沢な入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋5.4%) 価格：前年並。(▲1.2%) | | | | | | | |
| ほろ | 2018年 | 1,846 | 363 | 434 | 301 | 357 | 群馬 45% |
| | 2019年 | 1,072 | 723 | 773 | 776 | 640 | 茨城 29% |
| | 2020年 | 1,699 | 411 | 499 | 465 | 299 | 栃木 10% |
| | 2021年 | 1,826 | 391 | 469 | 350 | 366 | 埼玉 5% |
| | 2022年 | 1,751 | 420 | 524 | 416 | 336 | 千葉 5% |
| | 5ヵ年平均 | 1,639 | 438 | 519 | 433 | 380 | |
| | 2023年見通し | 1,800 | 425 | 400 | 480 | 395 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 群馬、茨城からの入荷が中心となる。生育は概ね順調で、各産地から潤沢な入荷が予想される。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(＋2.8%) 価格：前年並。(＋1.2%) | | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

10月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|------|--|-------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ねぎ | 2018年 | 1,144 | 379 | 424 | 360 | 351 | 長野 31% |
| | 2019年 | 1,170 | 388 | 386 | 377 | 403 | 北海道 20% |
| | 2020年 | 1,078 | 368 | 408 | 372 | 322 | 富山 9% |
| | 2021年 | 1,329 | 310 | 316 | 303 | 311 | 秋田 4% |
| | 2022年 | 1,157 | 345 | 346 | 350 | 339 | 群馬 4% |
| | 5ヵ年平均 | 1,176 | 356 | 373 | 350 | 345 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 1,000 | 440 | 450 | 440 | 430 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>長野、北海道を中心に各産地から入荷する。8月、9月の天候の影響により各産地減少傾向。愛知県産は大幅な遅れと生育不良のため減作で、北海道も平年に比べて早い終了を迎える見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | | |
| しそ | 2018年 | 1,813 | 161 | 191 | 148 | 141 | 茨城 44% |
| | 2019年 | 1,626 | 267 | 275 | 276 | 250 | 兵庫 32% |
| | 2020年 | 2,022 | 129 | 134 | 149 | 110 | 愛知 9% |
| | 2021年 | 2,177 | 142 | 170 | 133 | 129 | 熊本 3% |
| | 2022年 | 1,985 | 201 | 265 | 201 | 151 | 香川 3% |
| | 5ヵ年平均 | 1,924 | 176 | 203 | 176 | 152 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 2,000 | 170 | 180 | 170 | 160 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>茨城、兵庫を中心に入荷する。茨城産については生育順調で、兵庫については若干の生育遅れが見られる予想。気温高で推移すれば、大玉傾向の見込み。秋冬産地は全体的に作付は減少傾向。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> | | | | | | |
| きゅうり | 2018年 | 1,111 | 324 | 356 | 299 | 321 | 愛知 34% |
| | 2019年 | 1,114 | 362 | 475 | 348 | 296 | 群馬 26% |
| | 2020年 | 1,281 | 306 | 371 | 309 | 249 | 宮崎 16% |
| | 2021年 | 1,190 | 294 | 320 | 274 | 289 | 高知 8% |
| | 2022年 | 1,064 | 331 | 399 | 307 | 292 | 長野 5% |
| | 5ヵ年平均 | 1,152 | 322 | 379 | 307 | 288 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 1,000 | 350 | 400 | 350 | 300 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>愛知、群馬、宮崎などから入荷する。下旬までは抑制産地(群馬、長野)の残量と冬春産地の始まりから数量が少ない見込み。中旬から下旬に向けては冬春の増量により安定した出荷になる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | |

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|------|---|-------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ねぎ | 2018年 | 5,680 | 353 | 400 | 326 | 332 | 秋田 15% |
| | 2019年 | 5,608 | 371 | 360 | 357 | 394 | 茨城 15% |
| | 2020年 | 5,554 | 339 | 364 | 353 | 298 | 千葉 12% |
| | 2021年 | 5,762 | 265 | 270 | 263 | 262 | 栃木 9% |
| | 2022年 | 5,503 | 309 | 324 | 307 | 297 | 青森 8% |
| | 5ヵ年平均 | 5,621 | 327 | 343 | 321 | 316 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 5,000 | 460 | 420 | 480 | 480 | |
| ねぎ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>【産地状況】 秋田、茨城、千葉からの入荷が中心となる。北日本産は高温の影響で生育が悪く、また終盤となるため、入荷量は多くない。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲9.1%) 価格：前年を大幅に上回る。(＋48.9%)</p> | | | | | | |
| しそ | 2018年 | 7,505 | 144 | 184 | 137 | 114 | 茨城 58% |
| | 2019年 | 7,075 | 253 | 255 | 262 | 242 | 長崎 9% |
| | 2020年 | 7,119 | 120 | 128 | 137 | 97 | 兵庫 8% |
| | 2021年 | 7,013 | 139 | 160 | 130 | 127 | 静岡 7% |
| | 2022年 | 6,546 | 194 | 253 | 191 | 137 | 香川 6% |
| | 5ヵ年平均 | 7,052 | 169 | 195 | 171 | 143 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 6,600 | 170 | 190 | 160 | 160 | |
| しそ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>【産地状況】 茨城からの入荷が中心となる。各産地で高温の影響がみられる。茨城の生育遅延で上旬は少なく、中旬に他産地が増えてくる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋0.8%) 価格：前年をかなり下回る。(▲12.4%)</p> | | | | | | |
| きゅうり | 2018年 | 4,870 | 332 | 350 | 313 | 331 | 群馬 25% |
| | 2019年 | 4,884 | 388 | 456 | 386 | 330 | 埼玉 24% |
| | 2020年 | 5,076 | 316 | 367 | 319 | 265 | 宮崎 22% |
| | 2021年 | 5,191 | 297 | 314 | 282 | 295 | 千葉 8% |
| | 2022年 | 4,622 | 335 | 375 | 313 | 306 | 高知 6% |
| | 5ヵ年平均 | 4,929 | 333 | 372 | 322 | 305 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 4,500 | 350 | 400 | 330 | 320 | |
| きゅうり | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>【産地状況】 群馬、埼玉、宮崎からの入荷が中心となる。生育は順調で、中旬以降は西南暖地からの十分な入荷が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.6%) 価格：前年をやや上回る。(＋4.5%)</p> | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

10月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------------------------|------------------|---|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| な す | 2018年 | 474 | 404 | 427 | 387 | 397 | 熊本 54% |
| | 2019年 | 460 | 425 | 387 | 450 | 442 | 愛知 38% |
| | 2020年 | 492 | 416 | 421 | 430 | 398 | 山梨 4% |
| | 2021年 | 444 | 382 | 361 | 397 | 393 | 高知 3% |
| | 2022年 | 513 | 375 | 379 | 371 | 377 | 徳島 1% |
| | 5ヵ年平均 | 477 | 400 | 396 | 407 | 402 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 480 | 390 | 380 | 405 | 405 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、愛知、山梨などから入荷する。路地物（山梨・徳島）の切り上がりは早まる見込み。ハウス物（愛知、熊本）の生育は順調で、中旬頃からピークの見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | |
| ト マ ト | 2018年 | 931 | 449 | 564 | 432 | 357 | 熊本 34% |
| | 2019年 | 769 | 486 | 429 | 537 | 487 | 岐阜 27% |
| | 2020年 | 1,002 | 395 | 547 | 421 | 289 | 愛知 20% |
| | 2021年 | 843 | 463 | 515 | 429 | 461 | 三重 15% |
| | 2022年 | 847 | 451 | 594 | 441 | 351 | 大分 3% |
| | 5ヵ年平均 | 878 | 446 | 532 | 449 | 377 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 750 | 700 | 800 | 700 | 600 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、岐阜、愛知などから入荷する。9月の高温により定植が遅れ、花飛び、生育不良が目立つ。圃場状態が悪く、11月中旬まで非常に数量が少ない見込み。中旬より増量してくる予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | |
| ニ ン ジ ン | 2018年 | 436 | 801 | 968 | 879 | 632 | 熊本 60% |
| | 2019年 | 348 | 842 | 830 | 850 | 847 | 愛知 30% |
| | 2020年 | 446 | 714 | 949 | 789 | 521 | 茨城 5% |
| | 2021年 | 486 | 711 | 683 | 749 | 696 | 宮崎 3% |
| | 2022年 | 432 | 791 | 852 | 788 | 730 | 岐阜 1% |
| | 5ヵ年平均 | 430 | 767 | 847 | 807 | 672 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 430 | 790 | 850 | 780 | 740 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、愛知を中心に入荷する。夏の高温の影響から夏産地は終了し、冬産地は生育の遅れがみられるが、後半には熊本中心に出揃い入荷も多くなる予想。11月には各産地出揃い、安定した出荷となる見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p> | | | | | |

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--|------------------|--------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| な す | 2018年 | 2, 566 | 393 | 399 | 367 | 416 | 高知 56% |
| | 2019年 | 2, 316 | 467 | 454 | 495 | 455 | 福岡 14% |
| | 2020年 | 2, 469 | 414 | 412 | 419 | 410 | 熊本 9% |
| | 2021年 | 2, 493 | 403 | 402 | 392 | 418 | 栃木 8% |
| | 2022年 | 2, 404 | 360 | 352 | 350 | 380 | 群馬 6% |
| | 5カ年平均 | 2, 450 | 407 | 403 | 403 | 415 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 2, 400 | 400 | 400 | 400 | | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 高知、福岡からの入荷が中心となる。各産地の生育は順調で、高知が出荷盛期のため安定した入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.2%) 価格：前年をかなり上回る。(＋11.1%) | | | | | | | |
| ト マ ト | 2018年 | 5, 024 | 465 | 544 | 463 | 397 | 熊本 34% |
| | 2019年 | 4, 115 | 538 | 474 | 583 | 555 | 千葉 16% |
| | 2020年 | 4, 995 | 462 | 608 | 498 | 344 | 愛知 13% |
| | 2021年 | 4, 478 | 512 | 314 | 476 | 555 | 栃木 10% |
| | 2022年 | 4, 245 | 518 | 671 | 492 | 412 | 茨城 7% |
| | 5カ年平均 | 4, 571 | 497 | 524 | 500 | 448 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 4, 100 | 510 | 580 | 500 | 450 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 熊本、千葉、愛知からの入荷が中心となる。各産地で花飛びや裂果が見られる。中旬以降は熊本が盛期となる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲3.4%) 価格：前年並。(▲1.5%) | | | | | | | |
| ミ ニ ト マ ト | 2018年 | 1, 803 | 761 | 924 | 813 | 590 | 熊本 35% |
| | 2019年 | 1, 769 | 794 | 788 | 788 | 805 | 愛知 17% |
| | 2020年 | 1, 874 | 704 | 900 | 785 | 513 | 千葉 16% |
| | 2021年 | 1, 874 | 658 | 612 | 686 | 671 | 静岡 7% |
| | 2022年 | 1, 756 | 760 | 832 | 743 | 702 | 茨城 6% |
| | 5カ年平均 | 1, 815 | 734 | 810 | 763 | 654 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 1, 900 | 767 | 800 | 750 | 750 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 【産地状況】 熊本、愛知、千葉からの入荷が中心となる。生育は順調で、前年よりも潤沢な入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋8.2%) 価格：前年並。(＋0.9%) | | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

10月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|---|--------------|-------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ピーマン | 2018年 | 628 | 415 | 556 | 411 | 330 | 鹿児島 34% |
| | 2019年 | 509 | 366 | 383 | 392 | 393 | 茨城 31% |
| | 2020年 | 478 | 430 | 522 | 437 | 361 | 宮崎 24% |
| | 2021年 | 447 | 344 | 378 | 365 | 335 | 高知 11% |
| | 2022年 | 426 | 457 | 509 | 483 | 414 | 長野 1% |
| | 5ヵ年平均 | 498 | 402 | 477 | 415 | 365 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 450 | 480 | 500 | 480 | 450 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 鹿児島、茨城、宮崎を中心に入荷する。上旬は茨城の残量と冬春の出始めから数量多くない見込みだが、中旬から下旬に向けて増量してくる見込み。入荷量、価格ともに、前年をやや上回る見込み。 | | | | | | | |
| ばれいしよ | 2018年 | 2,396 | 119 | 117 | 120 | 118 | 北海道 95% |
| | 2019年 | 2,783 | 83 | 82 | 84 | 83 | 長崎 5% |
| | 2020年 | 2,327 | 137 | 134 | 141 | 137 | |
| | 2021年 | 2,037 | 203 | 195 | 199 | 213 | |
| | 2022年 | 2,247 | 115 | 110 | 111 | 118 | |
| | 5ヵ年平均 | 2,358 | 128 | 121 | 129 | 131 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 2,250 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 北海道からほぼ全量を入荷する。掘取時期に気温が高く、品質低下が続く見込み。L以下の小玉傾向で、出荷量は少ない予想。入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。 | | | | | | | |
| たまねぎ | 2018年 | 6,064 | 95 | 96 | 99 | 93 | 北海道 99% |
| | 2019年 | 6,272 | 74 | 78 | 75 | 72 | 中国 1% |
| | 2020年 | 6,225 | 71 | 72 | 72 | 71 | |
| | 2021年 | 6,800 | 143 | 124 | 141 | 168 | |
| | 2022年 | 6,814 | 96 | 98 | 97 | 95 | |
| | 5ヵ年平均 | 6,435 | 97 | 95 | 98 | 98 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 6,500 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は夏場の猛暑により品質不良となり、今後も下方修正の可能性はある。また、全道的な出回り量は多くなく、価格が強まる予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。 | | | | | | | |

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | | |
|-------|---|-------|------|-----|-----|------------|----------------------|--|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | |
| ピーマン | 2018年 | 2,001 | 421 | 519 | 396 | 345 | 茨城 53% | |
| | 2019年 | 2,048 | 413 | 411 | 419 | 411 | 宮崎 24% | |
| | 2020年 | 1,876 | 428 | 494 | 436 | 362 | 高知 14% | |
| | 2021年 | 2,041 | 356 | 372 | 370 | 327 | 鹿児島 6% | |
| | 2022年 | 1,810 | 456 | 473 | 470 | 426 | 岩手 2% | |
| | 5ヵ年平均 | 1,955 | 414 | 452 | 417 | 373 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 1,800 | 490 | 510 | 510 | 450 | | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | 【産地状況】 茨城、宮崎、高知からの入荷が中心となる。茨城は高温の影響から回復に向かい、宮崎と高知の生育は概ね順調。 | | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年並 (▲0.6%) 価格：前年をかなり上回る。 (+7.5%) | | | | | | | |
| ばれいしょ | 2018年 | 6,209 | 121 | 119 | 124 | 121 | 北海道 99% | |
| | 2019年 | 7,536 | 89 | 91 | 88 | 88 | 長崎 1% | |
| | 2020年 | 6,812 | 137 | 137 | 138 | 138 | | |
| | 2021年 | 5,951 | 195 | 183 | 196 | 205 | | |
| | 2022年 | 6,448 | 110 | 109 | 111 | 111 | | |
| | 5ヵ年平均 | 6,591 | 128 | 126 | 129 | 130 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 6,600 | 120 | 120 | 120 | 120 | | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | 【産地状況】 北海道からの入荷が中心となる。出荷サイズはL中心の小玉傾向。発芽が多く、荷動きが鈍くなる。 | | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年わずかに上回る。 (+2.4%) 価格：前年をかなり上回る。 (+9.1%) | | | | | | | |
| たまねぎ | 2018年 | 9,818 | 107 | 104 | 108 | 111 | 北海道 98% | |
| | 2019年 | 9,216 | 79 | 80 | 79 | 80 | 中国 2% | |
| | 2020年 | 9,122 | 75 | 75 | 74 | 75 | | |
| | 2021年 | 8,152 | 169 | 155 | 172 | 180 | | |
| | 2022年 | 8,921 | 103 | 100 | 104 | 106 | | |
| | 5ヵ年平均 | 9,046 | 105 | 102 | 106 | 109 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2023年見通し | 8,800 | 117 | 110 | 120 | 120 | | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | 【産地状況】 北海道からの入荷が中心となる。出荷サイズは小玉傾向。高温による生育不良で入荷量はやや少なくなる見込み。 | | | | | | | |
| | 【概況見通し】 入荷量：前年並 (▲1.4%) 価格：前年をかなり上回る。 (+13.6%) | | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

10月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|----------|---|--------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 果 | 2018年 | 10,475 | 299 | 311 | 304 | 296 | 静岡 16% |
| | 2019年 | 9,651 | 320 | 311 | 333 | 330 | フィリピン 15% |
| | 2020年 | 9,898 | 324 | 329 | 328 | 327 | 岐阜 11% |
| | 2021年 | 10,046 | 359 | 363 | 362 | 362 | 長野 11% |
| | 2022年 | 10,913 | 369 | 423 | 361 | 347 | 和歌山 10% |
| | 5ヵ年平均 | 10,197 | 335 | — | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2023年見通し | 10,700 | 390 | — | — | — | | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。いちごは、10月の天候次第で11月の定植が変わり、11月の入荷量が上下する見込み。 果実全体の入荷量は前年並、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | |
| みかん | 2018年 | 4,263 | 229 | 258 | 239 | 206 | 静岡 43% |
| | 2019年 | 3,846 | 244 | 240 | 263 | 242 | 和歌山 19% |
| | 2020年 | 4,263 | 259 | 276 | 268 | 244 | 愛知 16% |
| | 2021年 | 4,186 | 263 | 270 | 274 | 251 | 熊本 9% |
| | 2022年 | 3,762 | 264 | 292 | 278 | 237 | 三重 8% |
| | 5ヵ年平均 | 4,064 | 252 | 267 | 264 | 236 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2023年見通し | 4,100 | 265 | 280 | 270 | 260 | | |
| りんご | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>静岡、和歌山、愛知などから入荷する。早生を中心とした販売となる見込み。温暖化の影響で、着色がきれいについておらず、静岡、愛知は11月末からの販売となる予想。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並の見込み。</p> | | | | | | |
| かき | 2018年 | 2,032 | 265 | 630 | 607 | 787 | 岐阜 62% |
| | 2019年 | 1,752 | 282 | 600 | 429 | 706 | 和歌山 15% |
| | 2020年 | 1,501 | 336 | 487 | 385 | 627 | 愛知 12% |
| | 2021年 | 1,586 | 354 | 546 | 514 | 520 | 三重 10% |
| | 2022年 | 1,867 | 268 | 619 | 475 | 770 | 福島 1% |
| | 5ヵ年平均 | 1,748 | 297 | 582 | 488 | 691 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2023年見通し | 1,530 | 335 | 330 | 340 | 340 | | |
| きのこ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>岐阜を中心に和歌山、愛知などから入荷する。岐阜産について、昨年は豊作で大玉傾向だったが、今年は中玉傾向。11月上旬は愛知、和歌山、岐阜、三重産で、中旬以降は岐阜産中心になる見込み。 入荷量は前年大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | | |

注：前年の4～7月、本年の5～7月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地(%) |
|-----|--|--------|------|-----|-----|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | |
| 果 | 2018年 | 42,493 | 329 | 323 | 341 | 愛媛 18% |
| | 2019年 | 43,802 | 333 | 335 | 341 | 和歌山 10% |
| | 2020年 | 43,562 | 347 | 338 | 358 | 長崎 9% |
| | 2021年 | 42,005 | 380 | 371 | 389 | 熊本 9% |
| | 2022年 | 41,628 | 364 | 358 | 370 | 山形 7% |
| | 5ヵ年平均 | 42,698 | 350 | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 41,000 | 380 | — | — | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | |
| | 【産地概況】 みかん、りんご、かきを中心に入荷する。りんごは夏季高温の影響で日焼け果が見られるなど出荷量は減少する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.5%) 価格：前年をやや上回る。(＋4.4%) | | | | | |
| みかん | 2018年 | 21,334 | 273 | 275 | 262 | 愛媛 32% |
| | 2019年 | 20,820 | 264 | 273 | 263 | 長崎 17% |
| | 2020年 | 21,623 | 285 | 289 | 276 | 熊本 15% |
| | 2021年 | 21,985 | 285 | 287 | 276 | 和歌山 13% |
| | 2022年 | 19,455 | 298 | 305 | 287 | 佐賀 5% |
| | 5ヵ年平均 | 21,043 | 281 | 286 | 273 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 21,000 | 287 | 290 | 285 | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | |
| | 【産地概況】 愛媛、長崎、熊本を中心に入荷する。早生みかんのサイズはMS中心で、酸切れは良く、品質は前年並みを見込む。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋7.9%) 価格：前年をやや下回る。(▲3.7%) | | | | | |
| かき | 2018年 | 6,063 | 248 | 240 | 260 | 新潟 18% |
| | 2019年 | 6,967 | 266 | 270 | 273 | 愛知 17% |
| | 2020年 | 6,503 | 324 | 328 | 322 | 和歌山 17% |
| | 2021年 | 5,848 | 351 | 353 | 352 | 奈良 14% |
| | 2022年 | 7,968 | 236 | 233 | 233 | 福岡 8% |
| | 5ヵ年平均 | 6,670 | 282 | 282 | 284 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2023年見通し | 6,500 | 320 | 320 | 320 | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | |
| | 【産地概況】 富有が福岡等から、平核無が和歌山等から入荷する。夏季高温の影響により各産地の入荷量は前年より減少する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年を大幅に下回る。(▲18.4%) 価格：前年を大幅に上回る。(＋35.6%) | | | | | |

注：前年の4、5月、本年の5、6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで

切花・鉢花の11月の見通し

切花（愛知県港花き地方卸売市場 10月31日現在）

単位：千本、円／本

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|-------------------------|----------|---|-------|------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| 輪 ぎ | 実績 | 2018年 | 1,508 | 40 | |
| | | 2019年 | 1,600 | 45 | |
| | | 2020年 | 1,191 | 52 | |
| | | 2021年 | 1,441 | 54 | |
| | | 2022年 | 1,332 | 42 | |
| | 5カ年平均 | 1,414 | 46 | | |
| | 2023年見通し | 1,350 | 45 | | |
| | 概要 | 愛知、三重、沖縄から入荷する。上旬は昨年よりも入荷は少ない見込み。中旬以降品種も切り替わってくるが、多くはなさそう。 | | | |
| | 概要 | | | | |
| 小 ぎ | 実績 | 2018年 | 739 | 29 | |
| | | 2019年 | 750 | 30 | |
| | | 2020年 | 764 | 28 | |
| | | 2021年 | 737 | 33 | |
| | | 2022年 | 658 | 27 | |
| | 5カ年平均 | 730 | 30 | | |
| | 2023年見通し | 650 | 30 | | |
| | 概要 | 愛知、沖縄から入荷する。上旬は入荷量、色バランス等不安定になりそうだが、中旬以降からは安定してくる見込み。 | | | |
| | 概要 | | | | |
| カー ネー シ ョ ン | 実績 | 2018年 | 1,204 | 38 | |
| | | 2019年 | 1,100 | 38 | |
| | | 2020年 | 1,147 | 31 | |
| | | 2021年 | 1,041 | 41 | |
| | | 2022年 | 1,000 | 42 | |
| | 5カ年平均 | 1,098 | 38 | | |
| | 2023年見通し | 1,000 | 40 | | |
| | 概要 | 長野、愛知、輸入が入荷予定。愛知産は中旬から増えてくる見込み。一方、輸入は中旬から入荷が絞られる見込みで、上位等級が少なめとなる見込み。 | | | |
| | 概要 | | | | |
| か す み | 実績 | 2018年 | 102 | 120 | |
| | | 2019年 | 110 | 115 | |
| | | 2020年 | 139 | 87 | |
| | | 2021年 | 155 | 92 | |
| | | 2022年 | 150 | 95 | |
| | 5カ年平均 | 131 | 100 | | |
| | 2023年見通し | 150 | 100 | | |
| | 概要 | 和歌山、高知、熊本からの入荷となる。長野産は上旬、福島産は中旬に終了予定。西南暖地は台風の被害もなく、中旬にはまとまった入荷となる見込み。 | | | |
| | 概要 | | | | |

単位：千本、円／本

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き | | | |
|-----|---|-------|-------|------|------------------|-----------|--|--|
| | 実績等 | | | | 数量 千本 | 単価 円/本 | | |
| ゆり | 実績 | 2018年 | 268 | 178 | | | | |
| | | 2019年 | 270 | 175 | | | | |
| | | 2020年 | 244 | 179 | | | | |
| | | 2021年 | 221 | 203 | | | | |
| | | 2022年 | 196 | 218 | | | | |
| | 5カ年平均 | | 240 | 189 | | | | |
| | 2023年見通し | | 200 | 200 | | | | |
| 概要 | オリエンタルユリは高知、宮崎、新潟、埼玉、愛知などからの入荷となる。上旬はやや少なめであるが、中旬以降は増えてきそう。鉄砲、LAユリは高知、埼玉中心に昨年並みの入荷が見込まれる。 | | | | | | | |
| 洋らん | 実績 | 2018年 | 503 | 69 | | | | |
| | | 2019年 | 500 | 70 | | | | |
| | | 2020年 | 350 | 97 | | | | |
| | | 2021年 | 322 | 119 | | | | |
| | | 2022年 | 278 | 118 | | | | |
| | 5カ年平均 | | 391 | 89 | | | | |
| | 2023年見通し | | 285 | 120 | | | | |
| 概要 | オンシジウムは徐々に減少し、上位等級主体となる。デンファレは昨年より2割ほど増える見込みだが単価に左右される。シンピジウムは国内産が入荷始まる。ファレ、カトレアは横ばいで推移する見込み。 | | | | | | | |
| ばら | 実績 | 2018年 | 772 | 76 | | | | |
| | | 2019年 | 800 | 80 | | | | |
| | | 2020年 | 701 | 78 | | | | |
| | | 2021年 | 677 | 95 | | | | |
| | | 2022年 | 707 | 87 | | | | |
| | 5カ年平均 | | 731 | 83 | | | | |
| | 2023年見通し | | 700 | 85 | | | | |
| 概要 | 愛知、岐阜、三重中心。夏のダメージも抜けて品質もかなり向上し、昨年並の入荷が見込まれる。 | | | | | | | |
| 枝もの | 実績 | 2018年 | 1,396 | 54 | | | | |
| | | 2019年 | 1,450 | 50 | | | | |
| | | 2020年 | 1,259 | 57 | | | | |
| | | 2021年 | 1,432 | 62 | | | | |
| | | 2022年 | 1,230 | 60 | | | | |
| | 5カ年平均 | | 1,353 | 56 | | | | |
| | 2023年見通し | | 1,300 | 60 | | | | |
| 概要 | 例年通りクリスマス花材の引き合いが強くなる。ヒムロ、孔雀ヒバ、ブルーアイスなどのコニファ類は順調に入荷する。サンゴ水木、ベニヅル、柳類などの葉のない物も順調に入荷予定。 | | | | | | | |

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|--------|--|-------|---------|-------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| ドラセナ | 実績 | 2018年 | 12,114 | 753 | |
| | | 2019年 | 11,747 | 665 | |
| | | 2020年 | 16,748 | 941 | |
| | | 2021年 | 14,522 | 1,130 | |
| | | 2022年 | 12,209 | 1,300 | |
| | 5カ年平均 | | 13,468 | 965 | |
| | 2023年見通し | | 12,000 | 1,100 | |
| 概要 | <p>円安の影響で輸入原木の輸入が少なくなり、それに伴い入荷量は減少する見込み。生産サイズは6号以下がメインでの生産になり、特に大鉢の入荷は減少すると思われる。前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(58.0%)、2位鹿児島(15.7%)、3位沖縄(7.4%)であった。</p> | | | | |
| シヤコバサボ | 実績 | 2018年 | 41,212 | 415 | |
| | | 2019年 | 29,339 | 520 | |
| | | 2020年 | 32,266 | 539 | |
| | | 2021年 | 24,868 | 583 | |
| | | 2022年 | 24,000 | 583 | |
| | 5カ年平均 | | 30,337 | 516 | |
| | 2023年見通し | | 24,000 | 542 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より生産量減。生産件数も減。4号中心の出荷予定。6号、7号、8号は後半品薄感がある。相場を維持できるかが鍵になる。前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(87.8%)、2位埼玉(11.8%)、3位栃木(0.2%)であった。</p> | | | | |
| シクラメン | 実績 | 2018年 | 750,854 | 289 | |
| | | 2019年 | 659,736 | 279 | |
| | | 2020年 | 791,136 | 302 | |
| | | 2021年 | 794,945 | 309 | |
| | | 2022年 | 672,730 | 322 | |
| | 5カ年平均 | | 733,880 | 300 | |
| | 2023年見通し | | 660,000 | 326 | |
| 概要 | <p>入荷量は更に減少か。ガーデンシクラメン含む各サイズで作付け減少となっている。暑さの影響でパステル系は出荷の遅れが予想される。中旬以降から出荷量が集中しそうで相場の不安定感は避けられそうにない見込み。前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(32.0%)、2位長野(17.3%)、3位群馬(11.3%)であった。</p> | | | | |

単位：鉢、円／鉢

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|------------------------|---|-------|---------|-------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| シン ビ ジ ウ ム | 実績 | 2018年 | 44,723 | 1,898 | |
| | | 2019年 | 34,010 | 2,045 | |
| | | 2020年 | 40,986 | 2,268 | |
| | | 2021年 | 50,173 | 1,814 | |
| | | 2022年 | 35,955 | 2,127 | |
| | 5カ年平均 | | 43,978 | 1,975 | |
| | 2023年見通し | | 35,000 | 2,157 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より減少か。上がり続ける種苗、資材、燃料費により生産量が減っている。人手不足によりアーチシンビジウムの出荷は減る見込み。出荷は11月上旬から随時となる見込み。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（65.1%）、2位三重（12.9%）、3位高知（6.3%）であった。</p> | | | | |
| カ ラ コ エ | 実績 | 2018年 | 27,516 | 186 | |
| | | 2019年 | 20,547 | 208 | |
| | | 2020年 | 19,132 | 265 | |
| | | 2021年 | 21,561 | 250 | |
| | | 2022年 | 15,014 | 249 | |
| | 5カ年平均 | | 20,754 | 227 | |
| | 2023年見通し | | 15,000 | 247 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年並みか。夏の暑さの影響からようやく回復傾向になってきたが、急な気温の低下もあり開花スピードが緩やかになり若干出荷しづらい状況。入荷は4～6号が中心となり価格は各市日の入荷次第だが比較的安定の見込み。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（59.1%）、2位埼玉（31.4%）、3位茨城（3.0%）であった。</p> | | | | |
| パ ン ジ ー | 実績 | 2018年 | 911,667 | 50 | |
| | | 2019年 | 745,065 | 54 | |
| | | 2020年 | 900,558 | 54 | |
| | | 2021年 | 972,835 | 59 | |
| | | 2022年 | 786,696 | 63 | |
| | 5カ年平均 | | 863,364 | 56 | |
| | 2023年見通し | | 850,000 | 55 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より増加か。暑さで生育遅れや、暑さ対策から仕込み自体遅らせたことで、10月後半から11月中旬の出荷集中が予想される。その後は生産数や開花持ちなどから需要に追い付かず、供給不足の可能性あり。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（34.2%）、2位奈良（14.9%）、3位三重（13.0%）であった。</p> | | | | |



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.605
2023年11月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434